

ほつと人権

—第7号— 平成18年11月14日

学校支援部 人権教育担当

人権教育授業研究講座の第Ⅱ講座は、土佐清水市立清水中学校で行いました。

1 実践報告

人権教育の取組について、人権教育主任の山崎源生さんに報告していただきました。また、山崎さんは公開授業の授業者でもありました。

概要から、細かな取組まで報告していただきましたが、「教師としての姿勢」が明確にされていて、「教師自身がどれだけ人権感覚豊かな人間であるか」「子どものゆれが見える教師であるか」等、大切にしていることも紹介され、人権教育がきちんと位置付いていることが伺えました。



2 公開授業

3年生の特別活動の授業公開がありました。題材は、公共広告機構(AC)のテレビ広告で流れていた「あなたが、大切にだ」を用いたものでした。「・・・」誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける。自分が考える「・・・」を書き、次にクラスで掛け合いの言葉を考え、互いを思い合う内容の授業でした。

班発表では、教室にやさしさと温かさが広がり、仲間を思う気持ちに包まれていました。

土佐清水市立清水中学校 山崎源生さん



3 参加者の声から



●心が温くなる授業を見せてもらった。

生徒たちは、みんなが前を向いてうれしそうな表情をしていた。子どものつぶやきやゆれを感じたとき、即時の対応ができていたのではないかと感じて見せてもらった。

●清水中学校に塵が見えない。この学校の日ごろからの取組があるからだと感じている。「私だったらこうしたい」という意見は、班発表でなく、個の思想の確立を重視して個人発表の時間にした方が良かったのではないかと感じた。

●「うざい」「死ね」の言葉に対して、日ごろから対応しており、言葉を大切にしている先生の考えが、反映された授業ではなかったと思う。

●進行について、事務局の工夫が必要だった。